

令和2年度事業報告書

公益財団法人名古屋みなと振興財団

I 総括事項

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、名古屋港管理組合の要請により、名古屋港水族館を始めとした諸施設を令和2年3月2日から5月24日まで臨時休館した。

このことによる入館料収入の減収を受けて、飼育生物の餌代の一部を募るクラウドファンディングの実施、生き物たちの暮らしを応援していただく募金「ガチャ de 寄付」など、新たな収入確保に取り組んだ。

引き続き、海事思想の啓蒙と海洋文化の普及及び海洋生物等の展示並びに調査研究に努め、併せて観光事業の振興を図り、名古屋港の発展に寄与することを目的として、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、次の事業を行った。

1 公益目的事業

(1) 海事思想及び海洋文化の普及に関する事業

① 体験プログラムを通じた海洋文化の普及（資料1）

小中学生（大人含む）若しくは小学生とその家族（保護者）を対象とした水族館内でのスクール、講演会など主に水生生物に関する知識を深めるため、次の各事業を実施した。

ア 水族館ではスクールとして、例年「君もドリトル先生になれるか!」「もっと知りたい!ダーウィン教室」の2種を実施している。前者は、小学生とその家族を対象にバックヤード見学を中心とするもので、今年度は参加人数を制限するなど十分な新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで開催した。後者は、作業や実験・観察を行うものであり、密状態や接触を避けることができないため、開催を中止した。

イ 名古屋市及び全国14都道府県で採用している小学4年生の国語の教科書（ひろがる言葉 小学国語 4下：教育出版株式会社）に、当館のウミガメに関する取り組み（飼育、放流調査研究等）が紹介されていることから、今年度も市内児童向けウミガメレクチャーを実施（参加13校1,142名）した。

ウ 特別展は、5月25日より、昨年度末からの開催予定であった「びっくり生物大集合 ～究極の技を持つ水の生きものたち～」を10月4日まで開催した。また、写真展「飼育係が見た野生の姿～世界遺産知床のシャチ～」を開催した。さらに、“土用”、“知多半島で採集した魚”、“クリスマス”、“正月・干支”、“ガーデンふ頭の魚”など時機を捉えた各種展示を行った。

エ コロナ禍の状況において直接的な接触を避けるため、インターネット環境を活用したオンラインレクチャーを開始した。今年度の実績は3件173名だが、3月10日に実施したマレーシアのジョホール日本人学校（6年生8名）など、その対象は海外にまで及んだ。同様に、新型コロナウイルス感染症感染拡大のために水族館を訪問できなくなった学校団体から、講師の派遣を依頼されることもあり、館外レクチャーを実施した（3件276人）。

オ 5月25日にオープンした南館3階の常設展示室「エコ・アクアリウム～海の未来を考えよう!～」を活用し、環境教育やSDGs活動を進める関係諸機

関との連携に努めた。(例：名古屋市環境局：エコパルなごやのワークショップ開催やSDGs街(マーチ)への協力。愛知県：あいち環境学習プラザでのワークショップ開催。なごや環境大学への動画制作協力、環境デーなごや館内展示協力など)

② 機関紙等による情報提供(資料2)

ア 水族館機関紙「さかなかな」を年4回発行した。また、学習教材「かんさつノート」は、生物状況に応じて改訂し、来館した小中学生の希望者に配布した。特に教育旅行で訪れた小中学校の団体には企業協賛で増刷した簡易版を提供し、教育普及に活用した。

イ 生物情報紙「新着!海の生き物レター」は、2回発行し、来館者に対して当館で繁殖したウミガメに関する話題を提供した。

③ 体験プログラムを通じた海事思想の普及(資料3)

広く一般を対象とし、海事に関する知識を深めるため、次の各事業を実施した。

ア 「帆船模型展」、「工作教室(ペーパークラフト教室)」等の事業を実施した。ペーパークラフト教室については、新しいアイテムとして「ポートビル」を追加した。例年行っている、「南極教室」、「南極観測船ふじでの星空見学会」、「夏休み工作教室(立体ノート工作教室)」等の事業は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止した。

イ 親しまれる港づくりの一環として、元旦にポートビル展望室から初日の出を眺めるイベント「港から始まる2021」の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止した。

④ 学生の職場訪問及び教員研修等の受け入れ(資料1)

教員、学生を対象とした教員研修や職場訪問・体験指導などを受け入れ水族館及び海洋博物館等での体験プログラムや解説を実施し、また、学校団体へのレクチャーを実施することにより、参加者を通じて一般市民へ海洋文化及び海事思想の普及を図る予定であったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止した。

⑤ ボランティアの育成、活用(資料4)

ボランティアを育成、活用することにより、当該ボランティアスタッフ及び来館者へ海洋文化及び海事思想の普及を図った。

ア 水族館のボランティア活動は、登録者数192人で実施した。例年は館内各所でスポットガイド的な解説業務やスクールの補助活動、朗読会や工作会などを行っているが、今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、タッチタンクでの解説のみに限定し活動した。年間活動延べ人数は187人、総活動延べ時間は293時間であった。

イ 南極観測船ふじのボランティア活動は、解説ボランティア(12名)とメン

テナンスボランティア（3名）の登録があり、名古屋海洋博物館では博物館の更なる魅力向上のため、ボランティア（3名）の登録があるが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため今年度の活動をすべて中止した。

⑥ 研究会・ゼミナール等の開催（資料3及び5）

ア 共同研究講演会は、水族館とも共同研究を行っている近畿大学農学部水産学科海棲哺乳類学研究室の酒井麻衣講師を招聘し、「イルカの社会行動を調べてみよう！」（参加者91名）を実施した。（昨年度末に実施予定であったが新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため延期していた。）

イ 主に名古屋港を職場とする会社の職員等を始めとした市民を対象に「名古屋港港湾ゼミナール」の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止した。

⑦ 指定管理施設（水族館）を活用した海洋生物の展示等（資料5）

海洋生物の展示にあたってはテーマに沿った計画を策定し、生物の健康と飼育環境管理を適正に行い、生物の特性を引き出す展示を行うとともに、飼育担当者や解説ボランティア等による解説等を行った。ただし、本年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、イベント及び解説活動は制限して実施した。

ア イルカパフォーマンス、シャチの公開トレーニングは5月25日から再開したが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、スタンド席の観覧人数を制限して実施した。また夏休み期間中においてはそれぞれのイベント時間を短縮するとともに、実施回数を増やし、来館者の密状態の回避に努めた。

イ 来館者が操作する展示やモニターは可能な範囲で接触型から非接触型に変更した。

ウ シャチ「ステラ」「リン」「アース」の3頭の展示を継続し、併せて公開トレーニングをメインプールにおいても実施した。「リン」と「アース」が広いプールを活発に泳ぎ回りジャンプする姿や観覧席の直ぐ目の前に上陸する姿は人気を集めている。11月13日に「リン」は8歳を迎え、体長が4.8m、体重が1.6トンを超えるなど順調に成長し、周期的に排卵が継続している。「ステラ」の排卵も継続しているため、オスの「アース」とは分離飼育を適時実施した。10月13日に12歳となった「アース」は体長が5.6m、体重が2.4トンを超え、飼育下で日本最大のシャチとなった。背鰭・胸鰭・尾鰭の各鰭が大きくなりオスの迫力が感じられる体形に成長している。

エ バンドウイルカの繁殖について、「ココ」と「ソラ（4歳オス）」の親子は隔離飼育を実施し親離れ子離れが進みそれぞれ単独でパフォーマンスに参加できるようになり、「ルル」「ハル（2歳オス）」の親子がパフォーマンスに不定期で参加した。また、腰部に湾曲的症状がある「ハッピー（3歳メス）」も順調に生育し、母親の「ウィニー」と一緒にパフォーマンス参加の為のトレーニングを開始した。令和2年9月にかごしま水族館と共同でかごしま水族館の飼育個体の精液を輸送し「ゼロ」の人工授精を実施し、妊娠経過は順調で、令和3

年 9 月に出産予定である。

オ 平成 21 年に誕生したカマイルカ「アイ」は 11 歳を迎え、イルカパフォーマンスに継続的に参加している。ジャンプで 3 回ひねりを入れる種目「垂直バレルロール」をイルカパフォーマンスで公開し、引き続き好評を得ている。

カ 平成 29 年に新設された「ごまちゃんデッキ」では 11 月から「フィーディングタイム」を再開した。「ペンギンよちよちウォーク」も 11 月から再開予定であったが、岐阜県で鳥インフルエンザが発症したため、終息後の 3 月末から実施した。

キ 平成 19 年 7 月 25 日に誕生したベルーガ「ナナ」、平成 24 年 8 月 2 日誕生した「ミライ」は、共に順調に成長し、それぞれ 7 月と 8 月に 13 歳と 8 歳を迎えた。トレーニングの様子を解説する「ベルーガ公開トレーニング」は観覧スペースが狭いので、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため 11 月からの平日に 1 日 1 回の実施に留めた。このほか、ベルーガの生態を更に分かりやすく紹介する目的で実施しているイベント「ベルーガの不思議な魚の食べ方」は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止とした。

ク 「黒潮大水槽」で実施するイベント「マイワシのトルネード」は、お客様同士の間隔を空け、CO2 濃度の測定、換気循環の改善に取り組み、11 月から再開し、照明と音楽を時節ごとに変更し、来館者の好評を得た。

ケ 昨年度改修工事が終了した日本の海「潮間帯の生物」水槽は、5 月 25 日より展示を開始した。当該水槽は愛知県知多半島の磯をイメージした擬岩の作り替えやアクリルガラスの設置を行い、観察しやすくした。

コ 昨年度末から運用開始予定であった海洋プラスチックごみなどを例に海洋環境と生物の関係について解説する新施設「エコ・アクアリウム～海の未来を考えよう！～」を 5 月 25 日から運用開始した。

サ 令和 2 年 5 月 25 日から公式ホームページをリニューアルし、閲覧者の利便性向上のためスマートフォンにも対応させた。従来同様、公式ホームページでは、トピックスの頻繁な更新、飼育員が書き上げる「スタッフブログ」などを始めとする最新情報の発信に努め、本年度のホームページアクセス件数は 933 万件（前年度は 2,927 万件、ホームページのリニューアルに伴い、アクセス数のカウント方法が変更したため）となった。また、フェイスブックや昨年度から始めたインスタグラムなどの SNS への投稿にも努め、フェイスブックのフォロワー数は 32,032 人（前年度 32,018 人）、インスタグラムのフォロワー数は 55,678 人（前年度 25,560 人）となった。

シ マスメディアに対しては、話題性ある情報提供ができるよう積極的なニュースリリース及び取材対応に努め、44 件のニュースリリース（前年度 62 件）と 513 件の取材対応（前年度 312 件）を行い、多くのマスメディアに取り上げられた。

ス 夏期間、年末・年始、春休みは、休館日に臨時営業し、集客に努めた。また、夏休みには、新型コロナウイルス感染症対策のため、事前予約制を導入するとともに、夜間営業を実施し「夜間割引」を行った。また、新型コロナウイルス

感染症感染拡大防止のため令和2年3月2日から令和2年5月24日まで臨時休館したことにより、本年度の入館者数は922,314人（前年度比46.1%）となった。

⑧ その他

平成31年3月より取り扱いを開始した電子チケットの告知を積極的に行うことにより、水族館券売窓口で待つ時間を短くするなど、来館者の利便性を高めた。

また、平成29年からは訪日外国人にもよく利用され、空港やコンビニエンスストアなど多くの場所で採用されている「Japan Connected-free Wi-Fi」に加入し、水族館内で公衆無線LANを利用できるようにしている。

⑨ 指定管理施設（海洋博物館・南極観測船ふじ等）を活用した海事に関する展示等（資料3及び7）

海洋博物館及び南極観測船ふじにおいて所蔵している海事に関する資料を展示公開することにより、海事思想にふれあう場を提供し、来館者への海事思想普及を促した。

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止による休館の間は、オンライン配信を行い最新の情報提供を行った。また、企画展として、5月25日から10月4日まで、普段は展示されていない博物館の収蔵資料を用いた「名古屋海洋博物館のお宝展」を開催した。名古屋港は、1907年（明治40年）の開港以来～昭和30年代中頃までの輸出品の一位は陶磁器であったことを紹介するため、陶磁器や古地図、昭和30年代のパンフレット等の展示を行った。8月1日に展示物を一部入替し、期間中14,696人の人出で賑わった。また、3月には海洋博物館において、展示内容をより詳しく、より楽しく学習できる「スマートフォンコンテンツ」を導入した。

一方で特別展として「南極に渡った動物たち ～子猫のたけしからの挑戦状～」の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止した。このほか、ポートビル2階においては、回廊ギャラリーを一般市民に展示会場として開放し、無料休憩施設であるポートハウスにおいては、しおかぜコンサートを実施するとともに、名古屋市主催の音楽とアートのイベント「アッセンブリッジ・ナゴヤ」に協力、ポートビル、ポートハウスでのコンサートなどが開催された。その結果、ポートビル2階回廊ギャラリーは7回、ポートハウス休憩所は25回の利用があった。

⑩ 海洋生物等の調査研究（資料5）

海洋生物等の自家採集及び国内外の関係機関と連携して生物収集を行うほか、血統の登録管理や他園館との生物の交換又は貸借の調整を行うとともに、海洋生物等の飼育研究及び希少生物の飼育繁殖研究、フィールド調査、保護活動等の調査研究活動を実施した。

ア 本年度はペンギン類の繁殖数はジェンツーペンギン5個体、アデリーペン

ギン 4 個体の計 9 個体であった。ウミガメ類は水槽の改修工事などの影響で 2 年間繁殖がなかったが、本年度は 1997 年に名古屋港水族館で生まれたアカウミガメの初産卵が確認され、飼育下繁殖 2 世代目となる子ガメが誕生した。

イ 野生動物の教育的展示と種の保存事業を促進することを目的に、学术交流協定書を締結している京都大学野生動物研究センター、京都大学霊長類研究所、岐阜大学応用生物科学部、三重大学大学院生物資源学研究科と共同研究を実施した。また、近畿大学農学部、信州大学繊維学部、東海大学海洋学部等とも同様に共同研究を実施した。

ウ 平成 23 年 8 月に開始した名古屋港内のスナメリの出現頻度調査は、一時中断していたが、京都大学国際高等教育院附属データ科学イノベーション教育研究センター及び東海大学海洋学部環境社会学科の協力の元、平成 28 年度から再開している。本年度も継続して「音響観測門による名古屋港へ来遊するスナメリの生態解明と船舶の音響評価」と「名古屋港におけるスナメリの遊泳行動観測」を京都大学野生動物研究センターからの助成金を一部利用して実施した。

エ 学术交流協定を締結している岐阜大学応用生物科学部と三重大学大学院生物資源学研究科から、学生の教育（博物館実習）を目的とした実習生を受け入れた。ただし新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、受け入れ期間を例年より短縮し、さらに受け入れ学生に対して徹底した感染症対策の指導を実施したうえで受け入れた。

オ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、日本動物園水族館協会が主催する各研究会などが中止されたが、オンライン形式で開催された日本動物園水族館教育研究会などに参加し、研究発表を行った。

(2) ガーデンふ頭における賑わいの機会と場を提供する事業

① 名古屋港観光施設協議会の運営事業を始めとした観光振興事業（資料 6）

ガーデンふ頭地区を中心とした観光施設等が一体的に協力して相互の情報交換や連携を図り、名古屋港の観光情報を広く提供するため、ガーデンふ頭地区観光施設で組織された「名古屋港観光施設協議会」の事務局を務め、例年は名古屋港の観光客誘致に向けた観光推進 PR、誘致営業・宣伝事業等を行うとともに、本財団単独事業としても各種 PR を行っているが、本年度は集客につながる積極的な活動を自粛したため、当初予定していたこれらの活動は行うことができなかった。

学習旅行として来館した団体や、事前の下見に来た教員・旅行社の担当者に対して、ペンギン羽根カード、団体向けかんさつノートなどを進呈して、今後の学校団体誘致及び情報収集に努めた。加えて、名古屋をはじめとする近隣地域のホテル・旅館に「名古屋港水族館パートナーシップホテル」として登録していただき、ニュースリリースをはじめとするガーデンふ頭諸施設の情報、割引券及び案内パンフレット等を提供し、積極的な誘客に努めた。

② 情報誌の発行

名古屋港の観光施設の情報を掲載した無料情報誌（「ゴーゴー名古屋港（名古屋港ガーデンふ頭ガイドマップ）」等）を、県内外の各所に配布することにより、名古屋港の観光情報を発信し、来訪者の増加を図った。

③ 各種観光団体及び市内交通機関との連携を図る事業

県内の観光関係団体に加入し、県内の観光施設との連携及び情報の共有化を図ったが、同団体主催のイベントは新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止となった。また、名古屋市交通局と連携し、市営交通機関利用者に対して、当財団の施設入場料の割引を行い、名古屋港への来訪者の増加を図ることにより、この地域の活性化を図った。

④ 指定管理施設（ガーデンふ頭臨港緑園・ジェティ）を活用したイベントの開催（資料 7）

ガーデンふ頭地区におけるイベントの実施、誘致については、新型コロナウイルス感染症感染拡大により、例年、ガーデンふ頭臨港緑園及びジェティ広場でイベントを開催していた主催者から開催を自粛する旨の申し入れが相次ぐなど、本財団としても、このような社会情勢に鑑み、港の賑わいを創出する積極的な事業活動を実施することができなかった。

⑤ 指定管理施設（ガーデンふ頭臨港緑園・ジェティ）において賑わいの場を提供する事業

ガーデンふ頭臨港緑園及びジェティの運営を通じガーデンふ頭における賑わいの場を提供した。

ア ガーデンふ頭臨港緑園は、緑地維持業務、花壇整備等の施行により、緑豊かで快適な環境造りの推進に努めた。また、園内諸施設について、本来の美しい景観を甦らせるよう改修・修繕を積極的に実施した。

イ ジェティにおいては、新型コロナウイルス感染症対策を施し、飲食、物販のスペースを含めた休憩施設としての機能を生かし、名古屋港水族館を支援するとともに、親しまれる港としての名古屋港の発展に寄与した。

2 公益目的事業以外の事業

(1) 管理運営する施設の利便性を向上させる事業

ミュージアムショップ、レストラン、売店及び自動販売機を運営することにより、公益目的事業の一助とした。

また、平成 26 年 2 月より発足し、生物の保護、繁殖研究等の役割のさらなる向上に貢献している名古屋港水族館法人サポーター制度の会員数は、本年度末には 137 社、211 口となった。発足当時より右肩上がり続けていた法人サポーターの社数、口数ともに、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響などのため、初めて減少した。

(2) 船員宿泊施設の運営事業 (資料 8)

平成 25 年 10 月より、船員宿泊施設である名古屋船員会館 (ハーバーロッジなごや) の運営を行っている。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策を施し、船員はもとより来港者の宿泊を促し、観光事業の振興の一助とした。

3 その他

新型コロナウイルス感染症感染拡大による入館者数の減少をうけて、新たな収入確保に取り組むとともに、企業や団体などの相互誘致、知名度アップなどの目的でイベントを実施した。(資料 9)

(1) 寄付等の受け入れ

① クラウドファンディング (7/10~9/10)

広く一般の方に支援を募るためクラウドファンディングを実施し、支援者に対しては支援額に応じた返礼品を送付した。

② ガチャ de 寄付 (9/5~)

名古屋港水族館インフォメーション付近にカプセルステーションを置き、生き物たちの暮らしを応援していただく募金「ガチャ de 寄付」として 1 回 500 円の寄付を募り、生き物たちの餌代の一部に充当した。

(2) オリジナル物品等の販売

① 魚朱印の販売 (10/29~)

名古屋城との相互誘客を目的に、「鯨」タイアップ企画「Go To 鯨~シャチ~御城印・魚朱印巡り」として水族館版御朱印「魚朱印」を 1 枚 300 円で販売を開始し、両施設に入館した方にオリジナル缶バッジをプレゼントした。

タイアップ期間終了後も「魚朱印」の販売を継続し、記念日等にはオリジナル手作りスタンプを押印した魚朱印を販売した。

② 御朱印帳の販売 (2/20~)

10/29 から販売を開始した「魚朱印」に続き、名古屋港水族館オリジナル御朱印帳を 1 冊 2,500 円で販売を開始した。

③ オリジナル LINE スタンプの販売 (3/5~)

名古屋港水族館の認知度や海洋生物への親近感の向上を目的に LINE スタンプを制作し、1 セット (全 16 種類) 120 円もしくは 50 LINE コインで販売を開始した。

④ 北館スタジアムでのパブリックビューイングの開催 (10/18)

北館スタジアムの大型ビジョンで J リーグ公式戦ライブビューイングを開催した。

(3) 新しいイベントの実施

① 弥富金魚拡散大作戦！！（12/12～13）

新型コロナウイルス感染症感染拡大のため需要が低下した金魚の需要喚起と販売促進を目的に、弥富市金魚漁業協同組合主催のイベント「弥富金魚拡散大作戦！！」（愛知県と弥富市の補助事業）を開催した。

資料1 スクール等の参加状況

1 「君もドリトル先生になれるか！」対象：小学生と保護者

回	開催日	タイトル	参加人数
1	9/16	ペンギン	10名
2	10/11	黒潮大水槽	10名
3	11/8	ベルーガ	17名
4	12/20	ウミガメ	18名
5	1/17	イルカ	19名
6	2/14	シャチ	18名
7	3/14	ベルーガ	17名
参加総数合計			109名

2 「もっと知りたい！ダーウィン教室」

※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止

3 その他スクールなどへの参加状況

事業名	開催件数	参加者数
水族館スクール	7回	109名
職場訪問、館内・館外及び オンラインレクチャー	21件	1,652名
	うち 水族館 20件	うち 水族館 1,647名
	海洋博物館 1件	海洋博物館 5名
職場体験 ※中止	0校	0名
	うち 水族館 0校	うち 水族館 0名
	海洋博物館 0校	海洋博物館 0名

4 教員研修受け入れ人数

※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止

資料2 機関紙等の発行

1 機関紙「さかなかな」

Vol.106 2020 SUMMER	特集：特別展「びっくり生物大集合」の裏側
Vol.107 2020 AUTUMN	特集：ベルーガ繁殖成功のために
Vol.108 2020 WINTER	特集：つながる命とつなげる思い ～繁殖2世代目のアカウミガメ誕生とこれから～
Vol.109 2021 SPRING	特集：バンドウイルカの命を育む

2 生物情報誌「新着！海の生き物レター」

6/12	初産卵！ 水族館生まれのアカウミガメ
7/31	誕生！ 繁殖2世代目のアカウミガメ

資料3 ポートビル施設特記事項

事業名	開催会場	実施時期	参加人数
企画展「名古屋海洋博物館のお宝展」	3階博物館内	5/25～10/4	14,696人
特別展「南極に渡った動物たちと謎解きゲーム～子猫のたけしからの挑戦状～」	南極観測船ふじ	※中止	※中止
第36回ボトルシップ展	3階博物館内	11/1～1/11	9,681人
帆船模型展	2階B会議室	11/1～11/15	763人
第17回南極教室	4階講堂	※中止	※中止
第53回名古屋港港湾ゼミナール	4階講堂	※中止	※中止
第35回名古屋港を描いた作品コンクール	4階講堂	開催日 11/3 表彰式中止	634点
第14回南極観測船ふじでの星空観察会	南極観測船ふじ	※中止	※中止
オホーツクの流氷展 『オホーツクの流氷に触れてみませんか』	南極観測船ふじ	※中止	※中止
第36回ボトルシップの作り方入門教室	4階講堂	※中止	※中止
夏休み工作教室(3D立体色紙を作ろう！)	4階講堂	※中止	※中止
工作教室(ペーパークラフト教室)	3階博物館内	11～3月の 第2・4土曜日	109人
工作教室(立体カード工作教室)	3階博物館内	※中止	※中止
ボトルシップ製作講座	3階博物館内	※中止	※中止

※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止

資料4 ボランティア活動特記事項

1 水族館

事業名	活動延べ時間	活動延べ人数
水族館内解説活動 (タッチタンクのみ)	293 時間 20 分	187 人

2 南極観測船ふじ

事業名	活動延べ時間	活動延べ人数
メンテナンスボランティア	活動中止	活動中止
解説ボランティア	活動中止	活動中止

3 名古屋海洋博物館

事業名	活動延べ時間	活動延べ人数
解説ボランティア	活動中止	活動中止

資料5 飼育展示等関係特記事項

項 目	内 容
展示	<p>1 特別展の実施</p> <p>(1) 特別展「びっくり生物大集合 ～究極の技を持つ水の生きものたち～」を開催（5/25～10/4） 水域に生息する特異な生態を持つ生物を紹介</p> <p>2 期間展示の実施</p> <p>(1) 季節展示 土用のウナギ、知多半島で採集したハナオコゼ、同オニカマス、クリスマス、正月・干支、ガーデンふ頭の魚</p> <p>(2) 写真展「飼育係が見た野生の姿～世界遺産知床のシャチ～」（5/25～）</p> <p>3 常設展示の変更</p> <p>(1) 南館2階“日本の海”コーナー「潮間帯の生物水槽」を全面補修して展示再開（5/25～）</p> <p>(2) 南館休憩コーナーを新施設「エコ・アクアリウム～海の未来を考えよう！」に全面改修して展示（5/25～）</p> <p>4 解説・バックヤードツアー等</p> <p>(1) 南館フィーディングタイム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒潮大水槽（11月～毎日） ・サンゴ礁大水槽、ウミガメ回遊水槽、ペンギン水槽（11月～平日のみ） <p>(2) 黒潮大水槽</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイワシのトルネード（11月～平日のみ） <p>(3) サンゴ礁大水槽</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーコミュニケーション（11月～平日のみ） <p>(4)イルカ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イルカパフォーマンス（毎日） <p>(5) ベルーガ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベルーガの公開トレーニング（11月～平日のみ） <p>(6) シャチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メインプールなどで公開トレーニング解説実施（毎日） <p>(7) アザラシ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィーディングタイム（11月～毎日） <p>(8) ケープペンギン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィーディングタイム（11月～毎日） ・「ペンギンよちよちウォーク」（3/20～毎日）

	<p>(9) 夏休み期間 ・お泊り水族館 ※中止</p> <p>(10) 黒潮大水槽バックヤードツアー ・団体向け黒潮大水槽バックヤードツアー (14 件、748 人)</p> <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">4 月</td> <td style="width: 33%;">臨時休館</td> <td style="width: 33%;">10 月</td> <td style="width: 10%;">4 件</td> <td style="width: 10%;">182 人</td> </tr> <tr> <td>5 月</td> <td>0 件 0 人</td> <td>11 月</td> <td>8 件</td> <td>400 人</td> </tr> <tr> <td>6 月</td> <td>0 件 0 人</td> <td>12 月</td> <td>1 件</td> <td>120 人</td> </tr> <tr> <td>7 月</td> <td>0 件 0 人</td> <td>1 月</td> <td>0 件</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>8 月</td> <td>0 件 0 人</td> <td>2 月</td> <td>0 件</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>9 月</td> <td>0 件 0 人</td> <td>3 月</td> <td>1 件</td> <td>46 人</td> </tr> </table> <p>(11) エコパルなごやによるワークショップ開催 ・スタンプラリー、工作教室 (10/11 : 120 名、3/14 : 411 名)</p>	4 月	臨時休館	10 月	4 件	182 人	5 月	0 件 0 人	11 月	8 件	400 人	6 月	0 件 0 人	12 月	1 件	120 人	7 月	0 件 0 人	1 月	0 件	0 人	8 月	0 件 0 人	2 月	0 件	0 人	9 月	0 件 0 人	3 月	1 件	46 人
4 月	臨時休館	10 月	4 件	182 人																											
5 月	0 件 0 人	11 月	8 件	400 人																											
6 月	0 件 0 人	12 月	1 件	120 人																											
7 月	0 件 0 人	1 月	0 件	0 人																											
8 月	0 件 0 人	2 月	0 件	0 人																											
9 月	0 件 0 人	3 月	1 件	46 人																											
<p>調査研究 シンポジウム関係等</p>	<p>1 共同研究</p> <p>(1) 岐阜大学応用生物科学部と「ブタバナガメの繁殖生理に関する共同研究」「ベルーガの繁殖生理生態に関する共同研究」「シャチの繁殖生理と行動に関する共同研究」</p> <p>(2) 京都大学霊長類研究所と「飼育下イルカ類 (特にシャチ) を対象とした比較認知科学研究」</p> <p>(3) 京都大学国際高等教育院附属データ科学イノベーション教育研究センター、東海大学海洋学部環境社会学科と「名古屋港に来遊するスナメリの周年変動」</p> <p>(4) 三重大学大学院生物資源学研究科附属鯨類研究センター、岐阜大学応用生物科学部 (動物繁殖学研究室)、近畿大学農学部 (海棲哺乳類学研究室) と「シャチの繁殖と健康に関する研究」</p> <p>(5) 三重大学大学院生物資源学研究科と「アカイカ、アオリイカの発生に関する研究」</p> <p>(6) 三重大学大学院生物資源学研究科と「名古屋港の外来ウミウシ生態調査」</p> <p>(7) 三重大学大学院生物資源学研究科附属鯨類研究センターと「ベルーガ及びシャチのあくび様行動について」「ベルーガの個体間関係が Creaking Call に与える影響」</p> <p>(8) 近畿大学農学部と「シャチの社会行動とホルモンに関する研究」</p> <p>(9) 近畿大学農学部と「ハンドウイルカにおける社会的性行動に関する行動学的研究」</p> <p>(10) 信州大学繊維学部機械・ロボット学科と「イルカの立ち泳ぎメカニズムの解明と高推力水中推進機構開発への応用」</p>																														

- (11) 神奈川大学理学部生物科学科、金沢大学環日本海域環境研究センターと「ナンキョクオキアミの外骨格タンパク質に関する研究」
- (12) 東海大学海洋学部環境社会学科と「ウミガメ三種の潜水時間と呼吸姿勢に関する種間比較」
- (13) 高知大学総合研究センターと「アカウミガメ幼体の孵化から脱出の過程における行動」
- (14) 愛知教育大学と「水族館が所有する理科学習プログラムの調査・校外学習での効果的な教材やワークシートの開発」

2 シンポジウム・研究会などの参加

- (1) 野生動物研究センター共同利用研究会 2020「名古屋港に來遊するスナメリの生態研究：水族館の取り組みと野外調査報告」(9/10)
- (2) 飼育鯨類のヘリコバクター感染症に関する疫学調査報告会「飼育下ハンドウイルカにおけるヘリコバクター属細菌性胃炎～診断と治療の事例紹介と今後の課題～」(10/22, 30)
- (3) 第 64 回 日本医真菌学会学術集会「ハンドウイルカ (*Tursiops truncatus*) における呼吸器真菌感染症」(10/10)
- (4) 2020 年度飼育野生動物栄養研究会大会「飼育下ハンドウイルカにおけるヘリコバクター属細菌性胃炎～診断と治療の事例紹介と今後の課題～」(11/14)
- (5) 2020 年度勇魚会シンポジウム「名古屋港スナメリプロジェクトの紹介」(12/19)
- (6) 第 61 回日本動物園水族館教育研究会 WEB 大会「コロナ禍で再開したボランティアの生物解説活動」(2/6)
- (7) JAA 第 1 回水族館研究会「新型コロナ感染予防策を施した解説活動の再開」(3/15)

3 展示、研究協力

- (1) 岐阜大学応用生物科学部実習生受入れ (3 名)
(9/14～18、3/3～8、3/14～18)
- (2) 三重大学生物資源学部実習生受入れ(4 名)
(9/1～5、9/2～6、9/5～9、9/15～19)

4 職員派遣

- (1) 日本動物園水族館協会から委嘱
 - ・生物多様性委員会副委員長
 - ・教育普及員会学術研究部員
 - ・総務委員会情報システム運営部員

	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェンツーペンギン等、血統登録担当者 ・バンドウイルカ専門技術員 <p>(2) 日本水族館協会（旧：日本鯨類研究協議会）から委嘱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理事 ・鯨類長期飼育・繁殖推進委員 <p>(3) その他委嘱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度愛知県外来種検討委員 <p>(4) 館外レクチャー（一般等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋市立大学にて講義「動物とヒトの進化多様性」に1名講師派遣 32名参加（6/25、9月にWEBにて開催） ・岐阜県瑞浪市立瑞浪南中学校に1名講師派遣 中 1～315名参加（11/6） ・春日井市立知多中学校に1名講師派遣 177名参加（1/18） ・名古屋市立東星中学校に1名講師派遣 28名参加（2/3） ・マリンワールド海の中道ボランティア総会でのレクチャーに講師1名派遣 Zoomを含め約70名参加（3/21） 												
<p>講演 イベント等</p>	<p>学術交流協定共同研究講演会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 弥富金魚PRイベント「弥富金魚拡散大作戦！！」（12/12～13） 2 「イルカの社会行動を調べてみよう！」講師：近畿大学農学部水産学科海棲哺乳類学研究室の酒井麻衣講師（シネマ館）（参加者93名）（2/28） 												
<p>主な繁殖動物</p>	<table border="0"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">1</td> <td style="padding-right: 20px;">キタジェンツーペンギン</td> <td>5 個体</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アデリーペンギン</td> <td>4 個体</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>アカウミガメ</td> <td>207 個体</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ニシキマゲクビガメ</td> <td>9 個体</td> </tr> </table>	1	キタジェンツーペンギン	5 個体	2	アデリーペンギン	4 個体	3	アカウミガメ	207 個体	4	ニシキマゲクビガメ	9 個体
1	キタジェンツーペンギン	5 個体											
2	アデリーペンギン	4 個体											
3	アカウミガメ	207 個体											
4	ニシキマゲクビガメ	9 個体											
<p>飼育動物の譲渡等</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 ブリーディングローン（繁殖を目的とした生物の貸借） <ol style="list-style-type: none"> (1) アドベンチャーワールドとエンペラーペンギンのブリーディングローンを平成21年から継続中 (2) 鳥羽水族館とニシキマゲクビガメのブリーディングローンを平成21年から継続中 (3) 長崎ペンギン水族館にヒゲペンギンのブリーディングローンを平成26年から継続中 (4) 八景島シーパラダイスとバンドウイルカ（雄3頭）のブリーディングローンを平成29年度から継続中 (5) 東京都恩賜上野動物園から平成29年度よりケープペンギンをブリーディングローンで21羽借受け 												

(6) 八景島シーパラダイスとジェンツーペンギン 3 羽のブリーディングローンを開始

2 生物の貸し出し及び譲渡

(1) 愛知学泉大矢部教授へブタバナガメ 2 個体譲渡 (6/9)

(2) アクアトトぎふへ企画展用に利用するエイの歯標本貸し出し (10/22)

(3) 群馬県立自然史博物館へ企画展用の極地ペンギン映像撮影協力 (11/26)

3 生物の交換等

(1) 鶴岡市立加茂水族館よりミズクラゲ 30 個体を譲り受け (5/24)

(2) レゴランドシーライフよりクロアナゴ 8 個体、マアナゴ 14 個体を譲り受け (7/26)

(3) 韓国ハンファホテル&リゾートへアカクラゲ・オワンクラゲのポリプを提供 (12/13)

(4) なかがわ水遊園 (栃木県) にアカウミガメ (2020 年産) 1 個体貸し出し (2/26)

(5) 鶴岡市加茂水族館へウリクラゲ約 100 個提供 (3/12)

資料6 誘致宣伝事業・観光振興事業特記事項

1 各事業の開催実績

事業名	開催場所	開催時期
名古屋まつり（中止）※	名古屋市久屋大通	10/17～18
旅まつり名古屋 2021（中止）※	名古屋市久屋大通	3/6～7

※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止

2 団体観光客及び学習旅行の誘致等のため訪問した施設

※ 予定していた誘致等を目的とした施設訪問は、すべて自粛した。

資料7 施設の管理運営特記事項（各施設の利用状況）

1 各施設の利用実績

施設名	入館者数又は利用数
名古屋港水族館	922,314 人
ポートビル 講堂・会議室	370 回
同 展望室	50,627 人
同 名古屋海洋博物館	45,838 人
同 2階回廊ギャラリー	151 日
南極観測船ふじ	57,268 人
ポートハウス休憩所(しおかぜコンサート等催し物 25 件)	898 人
ガーデンふ頭一般駐車場	170,548 台
つどいの広場イベント	4 回
ジェティ来館者	579,590 人
ジェティ広場イベント	0 回

2 つどいの広場利用実績

事業名	主催者	日程	来場者数
わんだらけ	日本ドッグマルシェ協会	7/12	約 500 人
名港水上芸術花火 2020	名港水上芸術花火開催委員会	10/24	約 8,300 人
名古屋港 Illumination2020～ Over The Rainbow～	名古屋港冬のにぎわい創出実行委員会	11/23～ 12/26	10,386 人
ISOGAI 花火劇場 in 名古屋港	名古屋港冬花火実行委員会	12/18	約 5,500 人

3 ジェティ広場利用実績

※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、実施せず。

資料8 名古屋船員会館宿泊実績

月	宿泊人数	前年度比
4月	1,229人	47.9%
5月	574人	23.8%
6月	695人	40.6%
7月	771人	35.1%
8月	846人	27.1%
9月	986人	48.7%
10月	1,024人	60.0%
11月	995人	39.6%
12月	706人	38.2%
1月	754人	52.0%
2月	588人	30.9%
3月	901人	79.0%
合計	10,069人	40.9%

資料9 寄付等による新たな収入確保

<p>寄付等の 内容</p>	<p>1 クラウドファンディング (7/10～9/10) 目標額 5,000,000 円 支援額 14,297,000 円</p> <p>(支援額とそれに応じた返礼品)</p> <p>1,000円 お礼メール (生き物の鳴き声付き、以下同じ) 3,000円 オリジナル缶バッジ (6種類から1点選択)、お礼メール 5,000円 オリジナルふせん (2種) & オリジナルボールペン、お礼メール 10,000円 ペンギンの羽 (瓶入)、オリジナル缶バッジ、お礼メール 30,000円 オリジナル動画、ペンギンの羽 (瓶入)、オリジナルボールペン、お礼メール 100,000円 支援者のお名前の館内掲示、オリジナル動画、ペンギンの羽 (瓶入)、オリジナルボールペン、オリジナル缶バッジ、お礼メール</p>
	<p>2 カプセルステーションを使用した寄付「ガチャ de 寄付」 寄付額 3,219,000 円</p> <p>(内 訳)</p> <p>727,000 円 ①ながいきの羽根 (9/5～9/22) 986,000 円 ②シャチの缶バッジ (10/8～11/15) 166,500 円 ③海の生き物大集合缶バッジ (11/29～12/13) 951,500 円 ④シャチピンバッジ (12/16～3/31 現在) 160,000 円 ⑤幸せの黄色い落ちない羽根 (1/7～1/17) 141,500 円 ⑥アマペンさん缶バッジ (2/9～3/7) 86,500 円 ⑦水族館で会える”春”缶バッジ (2/9～3/31 現在)</p>
	<p>3 北館スタジアムでのパブリックビューイングの開催 (10/18) 約 1,000 人</p>